

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立岐阜盲学校 事業実施報告書③

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岐阜県】

1 実践テーマ	【 II、III 】
2 実施対象者	岐阜県立岐阜盲学校 普通科生徒（13名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（文化祭 フレンドパーク） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・来校された方にサウンドテーブルテニスやボーリングを楽しんでもらうことで視覚障がいについての理解啓発を深める。また、共に活動をすることで、相互理解に繋げていきたい。
5 取組内容	○事前の取組 ・生徒全員が、来校者の立場になって体験を行い、楽しんで活動をしてもらうための工夫を考えて意見を出し合うことにした。 ○フレンドパーク ・近隣の高校生にボランティアとして参加してもらい、一緒に来校者の対応を行った。 ・サウンドテーブルテニスでは、ルールを説明する人、対戦相手になる人、試合を進行する人に役割を分担して活動をする事ができた。体験をする人が、アイマスクを着用した際には、当校生徒が自主的にエスコートする場面もみられ、それをきっかけに話が弾むきっかけにも繋がっていった。 ・ボーリングでは、投げる人がアイマスクを着用しているため、音を鳴らして目標となるピンの場所を知らせることにした。音を頼りに投げることの難しさを体験することができた。

	
6 主な成果	当校の普通科の生徒数は13名と少人数である。また、同年代である他校の高校生と交流する機会も少ない。今回、ボランティアの高校生と一緒に、来校者に楽しんでもらおうと活動したことで、助け合う姿もみられた。文化祭終了後には、ボランティアの高校生に感謝の気持ちをメッセージに書いて渡したいと提案があり、感謝の気持ちを伝えることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	文化祭には地域の方や、近隣の高校生が多数来校されることもあるため、当校で実施している視覚障がい者スポーツの紹介を部活動紹介の中に入れて発表する場とした。
8主な課題等	生徒たちは視覚に障がいがあることで、支援を受ける機会が多い。そのため、主体的に活動する経験や自分たちでやり遂げたといった達成感がもちにくいこともある。今回のように、来校者の方に楽しみ、喜んでもらえた経験や同年代の仲間と一緒に活動する体験を通して、成就感や達成感がもてるようにしていきたい。また、ボランティアの高校生に対しては、当校の生徒が役割としてお願いしたいことを、相手に具体的に伝えて相互に理解し合うことができる場にしていきたい。
9来年度以降の実施予定	今年度は近隣の高校生にボランティアとして参加してもらうことができたため、同年代の高校生と共に活動することができた。今後も継続していきたい。